

第10回 **のらくろマンガ賞 作品募集!**

7月10日~10月31日

- ★コマ漫画部門 テーマ「うれし」
- ★ストーリー漫画部門 テーマは自由
- ★イラスト部門 テーマ「みんなののらくろ」

※詳細はチラシをご覧ください

《審査員の先生方》
永田竹丸、山根青鬼
江波じょうじ、ちあいのハレコ

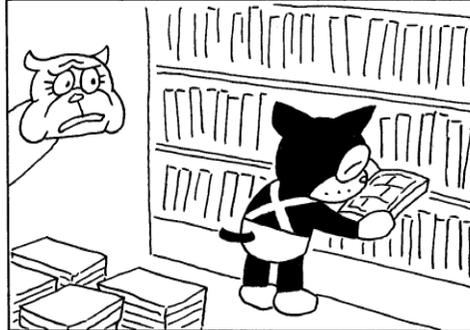
みなさまのご応募
お待ちしております!



©田河水泡 / 講談社

No.14

のらくろちゃん
(立ち読み) 山根青鬼



森下文化センター・イベント情報紙

第32号

のらくろ便り

'14 7月号

都会派アクション劇画

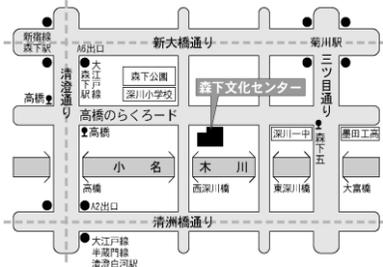
～江波じょうじの世界～展



8月7日(木)～8月31日(日)
森下文化センター 1階展示ロビーにて

平成26年7月15日発行
公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団
心にうるおい、地域ににぎわい。
Koto City Culture and Community Foundation

江東区森下文化センター
田河水泡・のらくろ館



〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
電話 03-5600-8666
FAX 03-5600-8677
HP <http://www.kcf.or.jp/morishita>
【開館時間】午前9時～午後10時
【休館日】第1・3月曜日(祝日の場合は開館)
年末年始(12/29～1/3)

～てぬぐいをアートする～

深川てぬぐい祭

7月18日(金)～8月2日(土)

森下文化センターロビー・
近隣の商店街などに展示します

地元、森下在住の藍染め作家糸井清子さんの「深川の街をてぬぐいでいっぱいになりたい!」という壮大な構想からこの企画が生まれました。事前に募った参加者の自由な発想で制作した「てぬぐい」の数々がいよいよお披露目されます。みなさまのご来場をお待ちしております。

★こちらでも展示します★

- ・ギャラリーコピス
7月28日～8月1日
- ・ギャラリーas
7月24日～8月8日

※詳細はお問い合わせください



風情あるこの深川を「てぬぐい」でいっぱいにします!

深川小学校
ウィークエンドスクール
てぬぐい教室

7月5日(土)、深川小学校にててぬぐい教室が開催されました。深川小では、PTAがウィークエンドスクール委員会を設置し、年間計画を立て、料理・ハーブ・ヒップホップなどの教室を運営して休日の子どもの活動の場を提供しています。この日参加した23名は、講師の糸井清子さんのアドバイスを受けながら、思い思いの作品を仕上げていきました。季節を感じる七夕や花・虹・キャラクターものから大好物のお寿司まで!マジックやクレヨンで色鮮やかに描かれた作品も、深川てぬぐい祭に出品されます。「もっと描きたい!」との声も聞かれるなど、大人も子供も楽しみました。



中央が講師の糸井さん

深川小キャラクター「フカッキ」



～てぬぐいの歴史～

古代、布は非常に高価だったため神祭具など限られた用途に使われました。鎌倉時代以降、庶民にも普及し始め、室町時代には浴用に、戦国時代には広く用いられるようになります。江戸時代頃から「てぬぐい」と呼ばれ、おしゃれアイテムとしても利用され、用途を広げていきました。



おしゃれな帽子としても

～藍染め～

藍染めの染料は、タデ藍を発酵させて作ります。染色を行うには、染料を水に溶かし、繊維の中にしみこませ、結合することによって行います。色があせにくい特性を持ち、江戸時代に多くの藍染めが行われ、特に阿波藩で生産が盛んでした。現在でも徳島県の藍染めは全国的に有名です。



タデ藍

暮らしの中にてぬぐいを!～てぬぐいあれこれ活用術～

★浴用タオル

肌にやさしく、ナイロン系のものよりも石鹸の泡立ちがよいです。ご家庭で普段使いにはもちろん、薄く、乾きが早いのがてぬぐいの特徴ですので、旅先での温泉めぐりにも役立つそうです。

★ブックカバー

折りたたんで作ります。切ったり、縫ったりしないので、ほかの用途にも使用できます。本の内容によってカバーを変えてみるのも楽しいですね。



★台所用品

ふきん・茶碗ふき・おしぼりに便利です。両端がきりっぱなしのため乾きが早く、雑菌が繁殖しにくいので衛生的です。お好みのサイズにカットして使えます。

★ティッシュケース

てぬぐいで覆うだけで、おしゃれなインテリアに早変わり!ポケットティッシュは、便利なポケットつきです。



★ペットボトルホルダー

水滴を吸収するので、バッグに入れても安心です。取っ手の位置を変えることで縦横両用になります。手ぶらのお出かけにも便利です。



インターネットや本に作り方が紹介されていますので、ぜひ参考になさってください。



八名川に残る旧新大橋名板



現在の新大橋

作中の雨に煙る新大橋も情緒的で趣がありますが、現在の橋にはやはり抜けるような青空が似合つと思いませんか。

新大橋は、絵の中にもその姿を見ることができず。歌川広重晩年の傑作「江戸名所百景大はしあだけの夕立」は、新大橋で降る夕立の情景を描いたものですが、印象派の大家フィンセント・ファン・ゴッホが模写した作品としてよく知られています。明治期には、最後の浮世絵師と称される小林清親が、「東京新大橋雨中図」と、やはり雨の新大橋を作品に残しました。

昭和五十一年(一九七七年)に現在の橋が架けられました。幾何学模様様が斬新で美しく、清洲橋とともに「新東京百景」に選定されました。

新大橋は、絵の中にもその姿を見ることができず。歌川広重晩年の傑作「江戸名所百景大はしあだけの夕立」は、新大橋で降る夕立の情景を描いたものですが、印象派の大家フィンセント・ファン・ゴッホが模写した作品としてよく知られています。明治期には、最後の浮世絵師と称される小林清親が、「東京新大橋雨中図」と、やはり雨の新大橋を作品に残しました。



旧新大橋

森下界隈端から橋まで
〜新大橋のおはなし〜

新大橋は、元禄六年(一六九三年)に架橋され、西国橋(大橋)に続く橋として「新大橋」と名付けられました。

「初雪ゆかけかかりたる橋の上」
「ありがたやいだいて踏む橋の霜」
松尾芭蕉は、新大橋完成のうれしさをこの二句に残しています。

その後、橋は何度も架けかえられ、明治四十五年(一九一二年)に鉄橋へと姿を変えました。隅田川に架かる吾妻橋・厩橋・西国橋・永代橋とともに明治の五大橋と呼ばれ、重厚なトラスの外観とファールノーバー風の繊細な装飾が特徴的です。この橋は「人助け橋」とも呼ばれ、大正十二年(一九一三年)の関東大震災の際、ほかの鉄橋が焼失する中で焼失を免れ、避難の道として多くの人命を救いました。現在は、愛知県大山市にある博物館明治村に中央区側の約二十五メートルが移築、保存されています。